

児童発達支援事業所における自己評価結果 (公表)

令和 2 年 2 月 4 日公表

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	○		法令に基づいた十分な療育スペースが確保されています。	スペースは適切ですが、遊戯室で色々なイベントをもっと行えるように考えています。
	2	○		定められている配置基準以上の職員の数有資格者で十分満たしています。	より良い療育などの充実のために職員数も増やすなども検討中です。
	3	○		生活空間は、分かりやすい構造になっています。利用児童の特性や課題に応じた環境作りを配慮しています。	年齢幅も小さい児童から年長児童まで全員が理解できるような工夫を目標にしています。
	4	○		清潔な環境を維持する為に、日頃から整理整頓や掃除をこまめに行い、壁面も季節ごとに利用児童の作品を飾るなど、常に温かい雰囲気になるように心掛けています。	衛生面では、毎日の掃除以外にも気づいた時にすぐ清掃を行うよう心がけ、また利用児童たちや保護者様にも心地よく感じてもらえるような空間作りを続けていきます。
業務改善	5	○		職員同士での情報を共有、及び周知するために、定期的なミーティングや、リフレクション会議に全員で参加し、PDCA サイクルの検討と情報共有に努めています。	今後もより多くの意見を集め、検討し、業務改善を進める為にしつかりと時間を作り、全員参加で話し合っていきます。
	6	○		評価でのご意見は元より、常日頃から保護者様のご意見やご要望を元に検討し、改善につなげています。	今後も頂いたご意見やご意向については職員全員で検討、業務改善に努力し、全ての保護者様に「はい」と答えて頂ける事業所を目指して参ります。
	7	○		今年度からアンケートを実施し、集計しています。自己評価表はホームページに掲載しています。	保護者様全員からご意見を頂き、そのご意見を真摯に受け止め、より良い事業所を目指して参ります。
	8		○	本年度は、第三者による外部評価を実施出来ておりません。	第三者による外部評価は、体制整備を事業所内で話し合い、早く実施出来るように検討して参ります。
	9	○		本社での研修、並びに事業所でも時間を設け、研修や勉強会を行っております。	今後は昨年度より回数を増やし、研修を続け、職員の資質の向上と研鑽を行って参ります。
適切な支援の提供	10	○		アセスメントを行い、適切な支援計画を立案・作成しています。常により良い支援が行えるように客観的な分析にも努めています。	児童発達支援計画に関しては、今後も保護者様のご意向をうかがった上で、児童の課題の発見、その改善を目指し、成長を促すものとして丁寧に作成して参ります。
	11	○		標準化されたアセスメントツールを使用しています。	より良い療育のために、客観的な視点を大事にし、今後も標準化されたアセスメントツールを活用して参ります。
	12	○		児童発達支援ガイドラインに沿った支援内容が設定されています。	今後も更に利用児童の成長につながるよう支援内容に配慮して参ります。また、保護者様にもイメージして頂きやすいように具体的な内容を記載して行きたいと思っております。
	13	○		支援計画を職員がしっかりと熟知し、計画に沿った支援を行っています。	今後も継続して支援計画に沿った取り組みを進めて参ります。
	14	○		支援内容は、毎週チームで話し合い、活動プログラムの立案を行っています。	今後も継続してチームでの立案を続けて参ります。
	15	○		利用児童の状況に合わせて、固定化しないよう工夫しています。	今後も児発管と保育士が中心となったチームで、多様な支援方法や教材などの活用を工夫して参ります。
	16	○		利用児童の状況に合わせて、個別指導と集団活動の組み合わせで支援計画を作成しています。	今後も同様に個別と集団の活動を組み合わせた支援計画の立案を行って参ります。
	17	○		毎朝、就業開始時にはミーティングを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	支援開始前のミーティングは、今後も継続して行って参ります。
	18	○		支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	今後も継続して支援終了後の打合せを行って参ります。
	19	○		療育プラン用紙を使い、毎日その日の療育内容を記録しています。日々の記録は、ケース会議などの討議に役立てております。	今後も継続して記録を取ることを徹底して参ります。
20	○		最低でも半年以内を目安に、定期的にモニタリングを行い、利用児童の成長や、発達に応じた計画の見直し、活動が画一的にならないような修正を行っています。	今後も定期的なモニタリングと計画の見直しを継続して参ります。	
関係機関や保護者との連携	21	○		施設の中で利用児童に対して最も把握している児発管が参加しています。	今後も継続して児発管が参画して参ります。
	22	○		児童を取り巻く様々な社会資源との繋がりを目指していますが、現時点では、一部機関との連携は行えていません。	まだ全ての機関との連携は不十分だと思われまので、今後更に強化していく予定です。
	23	○		現在、該当する重症心身障がい児の利用はありませんが、該当児童が利用することとなった場合、関係各所と連携支援を行える体制は整えています。	該当児童のご利用が決まった時点で、すぐに対応できるよう、準備を整えて参ります。
	24	○		現在該当する重症心身障がい児の利用はありませんが、利用することとなった場合、児童の主治医や事業所の協力医と連携支援を行える準備はできています。	協力医療機関が目前にあり、連絡体制は整っています。該当児童のご利用が決まった時点で、主治医とも連絡を取り、対応できるように準備を整えて参ります。
	25	○		出来る限り繋がれる機会を通し、相互理解を図っています。具体的には担当者会議での意見交換や、電話、送迎時の機会に相談や面談での共通理解に努めています。	これからも児童を取り巻く全ての環境にある関係機関との相互理解を目標に細かい情報共有を図って参ります。
	26	○		就学する際に、担当者会議等を行い、事業所内での様子をお伝えし、情報共有に努めています。	移行支援の情報共有に伴う個人情報に関しては保護者様の同意も頂き、その上で何度でも情報共有と相互理解に努めて参ります。
	27	○		専門機関との連携や助言を頂く・研修の受講については、率先して参加し、情報交換や共有もしていますが、まだ不十分と感じています。	今後、企画されたものへの参加のみならず、交流や勉強会を自ら模索し、企画を行い、それらを通して更に連携を図っていきたくと思っています。
	28	○		現時点では障がいのない子どもたちとの積極的な交流を持つ機会も持てませんでした。	今年度は、保護者様のご意向も視野に入れ、地域の子供たちとふれあい交流の機会について考察・検討・企画していきたいと考えています。
	29	○		職員が定期的に参加しています。	参加していく職員数を増やしていくと検討・考察しています。
	30	○		日々の送迎時、電話連絡、連絡帳、また面談を行うなど、あらゆる機会を逃さず情報交換を行っています。	今後もあらゆる機会に保護者様との情報共有を行い、保護者様に頂いた情報は職員間で伝え合い、共通理解を図っていきます。
31	○		保護者様からのご質問も多く、十分に内容を把握して、ご家庭訪問時や事業所での相談なども承っており、色々な視点からアドバイスをし、少しでもお悩みが解決できるよう支援を行っています。	今後ご相談には丁寧に対応させて頂きながら、ご要望があれば、ペアレントトレーニングの勉強会なども企画していきたいと考えております。	
保護者への説明責任等	32	○		ご契約の際に説明合わせを行い、丁寧に説明を行っています。	保護者様全員に十分に理解して頂けるよう、これからも心掛けて参ります。
	33	○		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	今後もより分かりやすい説明を心がけ、ご理解とご賛同を頂けることを目標に配慮し、対応して参ります。
	34	○		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っています。	保護者様からすぐにご相談は、但し、センターからも助言や支援のご提案をしています。
	35		○	児童の通う保育・幼稚園の父母の会には、職員が定期的に参加しては行えていません。	今後は、事例や情報を共有できるように、保護者会の組織構築や会の開催を企画・検討して参ります。
	36	○		申し入れは丁寧にお聞きし、適切に対応させて頂いており、重大なクレームは未だ頂いておりませんが、苦情受付の窓口も選定しており、迅速に対応させて頂く準備は整えております。	今後も相談や申し入れについての対応は引き続き丁寧かつ迅速に対応して参ります。
	37	○		現在は年 4 回季刊発行の「おたより」や Web サイトでのブログでも活動をご案内しています。センターでは、連絡帳のカレンダーを通じ、行事予定発信は行っています。	引き続きブログや季節の「おたより」を継続し、今後は、センター発信の情報をお伝えすべく、会報の充実について企画・検討中です。
	38	○		個人情報情報は情報漏洩・取り扱いに細心の注意を払っています。また個人情報情報は、鍵付きの書庫で保管しています。	引き続き使用・保管には、最新の注意を払って参ります。
	39	○		利用児童や保護者様の特性や状況に合わせて、十分に配慮した情報伝達手段で意思の疎通を行っています。	今後も同様に継続して参ります。
	40	○		本年度は積極的に企画するまでに至りませんでした。町内の夏祭りには山車が立ち寄ってくれて、利用児童たちも大喜びでした。	今後は、地域と触れ合い大切さを考慮し、地域とのふれあい交流を通じ、密接な関係を築いていきたいと思ひ、運営を企画・検討して参ります。
	非常時等の対応	41	○		センターの入り口に各種マニュアルや対策を掲示しています。定期的に発生を想定した話し合いも行っていきます。
42		○		避難訓練は(訓練日に参加が可能な児童と共に)定期的に行っています。	今後も緊急時にも職員や児童と「命を守る行動」を取れるように、定期的な訓練と防災学習を継続して参ります。
43		○		保護者様から丁寧にお聞き取りを行い、詳細な打ち合わせを行い、一覧表を作成して全職員に周知しています。	今後も常に児童の情報を更新し、継続して安全に配慮して参ります。
44		○		指示書がある利用児童については、保護者様と綿密に情報共有を行い、指示書の内容を一覧表を行い、一覧表を作成して全職員に周知、細心の対応を行っています。	今後も常に児童の情報を更新し、継続して安全に配慮して参ります。
45		○		ヒヤリハットはファイルの夏祭り、今までの事例を閲覧・周知して再発防止に繋がっています。	今後も継続して記録を続け、事故防止に努めます。
46		○		事業所内で虐待防止責任者を選定し、また、最低でも年に 1 回は虐待防止に関する職員研修を行い、職員の資質の向上に努めています。	今後も継続して虐待防止研修を行い、更なる研鑽に努めます。
47		○		利用契約書には、原則として身体拘束の禁止を記載しています。生命または身体を保護する為には、やむを得ず身体拘束を行う場合は、あらかじめ説明し理解を得ることを得ています。	今後も利用契約書に準じ、原則身体拘束は行わないように努め、万一、止むを得ず身体拘束に踏み切る場合には、保護者様や当該児童と話し合い、同意を得た上で支援計画にも記載し、慎重に行って参ります。

○この「事業所における自己評価結果 (公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。